



シベリウス（1865-1957）、プロコフィエフ（1891-1953）と並び、マーラー（1860-1911）以降の最大の交響曲作家として評価されています。

音楽好きの両親の下に生まれ、ピアノを習い始めるとめきめきと上達したそうです。音楽を専門に勉強し、作曲とピアノを専攻しました。

ロシアが様々な動乱の時期にあった時代に生きていた作曲家です。

第一次世界大戦、2つのロシア革命、第二次世界大戦その後のソヴィエト連邦政府の政策で、大変厳しい環境の中で曲を作らざるを得ない状態に置かれていました。

様々な曲を発表しますが、1930年代はプロレタリア音楽が重要視され、軽音楽やジャズなどと共にショスタコーヴィッチの曲も「ブルジョア的」と批判されてしまいます。

特に1936年にソヴィエト共産党機関紙「プラウダ」で批判され、自己批判をさせられました。

当時はスターリンの政策で大変な粛清が行われていたのですが、その頃すでに世界的にも評価されていたショスタコーヴィッチの命を脅かすことはできなかったようです。

そのためその後の作品はかなり長い間政府が期待する社会主義を称賛するための音楽しか作れませんでした。

スターリンの死後、フルシチョフが書記長になり、フルシチョフはスターリン政権下で行われた大粛清を批判します。

ここで少しだけ自由に作曲できるようになったのですね。ただ共産党に入党することを強いられたり、完全に自由とは言えなかったようです。

この過酷な状況でも交響曲15曲、弦楽四重奏曲15曲、その他協奏曲、管弦楽曲、バレエ音楽、映画音楽、ピアノ曲と数多くの作品を残しています。

作品は重たい曲ばかりかと思いますが、ピアノ曲の「リリックワルツ」などはとてもかわいい曲です。

機会がありましたら、ぜひお聴きください。

#### ☆弦楽四重奏曲 第7番

ショスタコーヴィッチは15曲の弦楽四重奏曲を書いています。

特にこの第7番は癌のため死去した最初の妻ニーナに捧げる曲として書かれました。

夫婦関係は正直良好ではなかったそうですが、ショスタコーヴィッチの作曲活動を支えていた妻が亡くなるというのは大きなことだったのだと思います。

全3楽章でものすごく激しい部分はないですが、全体的に重々しく鬱々とした曲調です。

68歳で1975年に亡くなったショスタコーヴィッチの過酷な一生を思うと曲の印象も変わるのではないのでしょうか？

どうぞじっくりお聴きください。(A.N)

#### ■予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

\*\*\*\*\*

【2】今後の予定（先取り情報）

-----  
★☆第72回コンサート☆★

◇2025年1月19日（日）

◇出演：荒川文吉（オーボエ）、 黒岩航紀（ピアノ）

◇プログラム

◆G. ドニゼッティ：オーボエソナタ

◆R. シュトラウス：『4つの最後の歌』より「春」

◆P. サンカン：オーボエソナチネ

ほか

◇予約受付開始：2024年11月18日（月曜日）午前9時より

★プログラム等詳細は順次、本紙面、ウェブサイト、チラシ等でお知らせします。

\*\*\*\*\*

### 【3】『弦楽四重奏』

弦楽四重奏は、2本のヴァイオリン、1本のヴィオラ、1本のチェロからなる合奏形態で、クラシック音楽の中でも特に重要なジャンルの一つです。

弦楽四重奏の起源は、17世紀から18世紀にかけての室内楽の発展にあります。特に、バロック時代のアレサンドロ・スカルラッティ（1660-1725）が「四重奏、ただし、通奏低音抜きで」という形式を開拓したことが始まりとされています。

その後、フランツ・ヨーゼフ・ハイドン（1732-1809）は、68曲の作品を残す中で「弦楽四重奏曲」という言葉を初めて使い、これが定着して「弦楽四重奏」というジャンルが定まることとなります。

そのため「弦楽四重奏の父」と称され、その後の多くの作曲家に影響を与えることとなります。

例えば、モーツァルト（1756-1791）は23曲の作品を残しています。

特に代表作「ハイドン・セット」（第14番-19番）は全6曲に3年近くをかけて作曲しました。

その後、ベートーヴェン（1770-1827）の中期の傑作群（ラズモフスキー弦楽四重奏曲）により、交響曲と並ぶ作曲家の重要ジャンルとして確立されることとなります。

そのためもあって、常設で活躍し続ける団体が世界中で数多く存在する唯一の室内楽形態ともなっています。

ところで、ジョイコンではこれまで第3回、第9回、第33回（5周年記念）で弦楽四重奏のコンサートを開催しています。

その後、第44回、第53回、第66回にも企画しましたが“コロナ禍”などにより中止となった経緯があります。

次回コンサートでは、新進気鋭かつ実力派の「レグルス・クアルテット」による久しぶりの弦楽四重奏のコンサートとなります。

プログラムも、「ハイドン・セット」から《第17番 変ロ長調「狩」》など名曲が演奏されます。

どうぞご期待ください。（でくのぼう）

\*\*\*\*\*

### 【4】コンサートのアンケートから

前回のジョイフルコンサート（9月15日公演）『フランス六重奏』は如何でしたか？

「Web アンケート」には、演奏のご感想や運営について、今後のご希望など貴重かつ熱心なコメントを頂きました。今回もその一部をご紹介します。

アンケートでの質問「今回のコンサート内容はいかがでしたか？（5段階評価）」では、「大変良かった」62%、「良かった」38%と好評でした。

自由記入欄の「演奏のご感想」では、

『技術的にもレベルが高く、アンサンブルの調和も素晴らしい素敵な演奏会でした。特にシュレーダーの六重奏が一番良かったです』『今回もプロの演奏家の方々の素敵な演奏に加え、聴き手が楽しめるようにトークセッションがあったりと、演奏家の方々の工夫が有難いです』『最高の演奏でした。クラリネットとバスソンの響きがフランス音楽ならではの演奏』など、大満足とのご感想がたくさん寄せられました。

また『あまり聴かない曲が多く演奏は素晴らしかったが、誰もが知っている曲を入れて貰えるともっと良かった』『有名な曲もありつつ、結構マニアックな選曲でしたので、音楽仲間におすすめしたくなりました』などプログラム構成に関するコメントもありました。

「運営について」では、『企画、運営されているスタッフの皆さんに感謝致します』『ステージ関係もボランティアの方がされている感じで好感がもてました。転換は大変そうでしたね』などの“感謝”や“労い”のコメントがこれまでに多く寄せられました。

一方『少し会場が空調効きすぎな感じでした。外は猛暑の日だったので仕方なかったのかな』『マイクがハウリングを起こして興奮めになる場面も』などのご指摘がありました。

頂いたご意見やご提案も参考にしながら、引き続き運営の改善をして参ります。  
アンケート回収数:21 (回収率 15%)

\*\*\*\*\*

#### 【編集後記】

ようやく長かった酷暑に終わりが見えてきました。  
朝と夜が少し涼しくなって、ホッとしますね。  
この暑さの疲れが、体調に出てくる頃かと思います。  
どうぞ体調には十分お気を付けください。(A.N)

\*\*\*\*\*

※このメールマガジンは、大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

#### ■次回予約申し込みはこちら

ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>  
予約専用電話：080-8424-5108

#### ■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら  
ホームページ：<https://www.ohkurayama-joycon.com/>

#### ■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら  
<mailto:info@ohkurayama-joycon.com>

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会  
Eメール <mailto:info@ohkurayama-joycon.com>  
携帯電話 080-8424-5108  
URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>